



大分市の紹介企業 応募が急増

副業農業で収入カバ―

仕事があれば農業を。新型コロナウイルスが経済に影響を落とす中、「副業」としての農業に注目が集まっている。大分県内外の農家に働き手を紹介する「菜果野アグリ」(大分市古国府)は3月以降、仕事が減った自営業者や会社員からの応募が増加。生活を維持するための貴重な収入となっている。高齢化が進む生産現場も「人手不足の解消につながる」と歓迎している。

新型 コロナ

新たなビジネス構想

菜果野アグリはJA全農おおいと連携し、日雇いのアルバイトを募って農家に労働力を供給している。2015年の設立以降、主婦やフリーターといった層が多かったが、感染拡大後は会社員や自営業者ら本業を別を持つ人からの申し込みが目立つようになった。県内で初めて感染者が確認された

3月は、求人サイトからの応募者が想定以上の33件に上った。由布市湯布院町でゲストハウスを運営する太田二郎さん(51)は「大分市豊饒」もその一人。インバウンド需要を見込んで2月に開業した直後、コロナ禍に見舞われた。中国や欧州からの予約が全てキャンセルになり、「何もしなければ預貯金を食いつぶすだけ。現金収入を確保しなくては」と応募を思い立った。4月初旬から県内各地でカボチャの定植や茶葉の搬送を手伝っている。食糧作物を作る大切さを感じた働く日を自らで選べるのは、本業がある身にとって非常に助かる。農家との触れ合いで新たなビジネスの構想も浮かんだという。

目立つ自営業、会社員

従業員に頼める企業と、農業を勧める企業もある。テレビ番組の企画・制作を手掛ける「デジタル・テコ」(同市若田町)は、3月以降の番組ロケやCM撮影が激減した。勤務体制を一時的に週休4日に変更し、社員、アルバイトの3人には副業として菜果野アグリを紹介した。番組の編集業務を担当する団塚季太郎さん(41)は「同市常行」は今月上旬、豊後大野市大野町のキャベツ畑で草刈りや収穫作業に参加した。普段のデスクワークから一転、土にまみれて汗をかいた。きつけれど気持ちがいい。週に2回ほど働くつもり」と、半農生活を継続に前向きだ。他業種との助け合い 菜果野アグリによると、3月5月は例年、県内で作物の収穫が少ない。今年も求人を一時やめていたが、その間も就労の問い合わせは続いていたという。これから8月にかけては白ネギやピーマン、トマトなどの生産量が一気に増えるため、猫の手も借りたい状態だと人材を募っている。尾崎佑介主任(33)は「コロナで苦しむ他業種と互いに助け合い、多くの人が農業に頼りむきかけにもなれば」と期待した。(小松和茂)

新型コロナウイルスが経済に影響を落とす中、「副業」としての農業に注目が集まっています。

2020年6月22日付 大分合同新聞 1面

①農家に働き手を紹介する大分市内の企業「菜果野アグリ」には、3月以降、応募者が急増しています。その理由は何でしょう？

.....

②由布市湯布院町でゲストハウスを運営する太田二郎さんが応募を思い立ったのはなぜですか？

.....

③働き手を受け入れる農家の人はこうした動きをどう感じていますか？

.....

④「菜果野アグリ」の担当者・尾崎佑介さんは何と話していますか？

.....